

《長崎新聞 平成 24 年 6 月 25 日朝刊より転載》

【質問】 出産したばかりの主婦ですが、間もなく新しい予防接種が打てるようになると聞きました。詳しく教えてください。
(32歳・主婦)

子どもの予防接種

【回答】 今年9月からポリオ（小児まひ）の不活化ワクチン、そして来年4月からはインフルエンザ菌b型（ヒブ）、小児用肺炎球菌、子宮頸（けい）がんの三つのワクチンが定期予防接種に組み入れられます。接種費用は原則無料です。現行の定期予防接種と同じように、県内であれば居住地区以外の市町でもこれらを受けられる予定です。



ヒブなど4種類定期化

現在使われているポリオワクチンは生ワクチンといつて、毒素を弱めた生きたウイルスを含んでいます。効果が強い反面、ごくまれに手足にまひが生じたり、周囲の人にウイルスが感染することがあります。一方、不活化ワクチンは病原性をなくしたウイルス

成分を使うので安全性が高いのです。いまや先進国で生ワクチンを使っているの

ワクチンを3回接種します。今年11月ごろからは、従来の3種混合ワクチンに不活化ワクチンを加えた4種混合ワクチンが供給される予定です。

子宮頸がん予防ワクチンと乳幼児の肺炎や細菌性髄膜炎を予防するヒブワクチ

は日本だけで、安全な不活化ワクチンが待ち望まれていました。日本でもやっとならぬように、厚生労働省は13年度から定期予防接種の対象とする方針です。これらも欧米では既に定期接種となっており、日本はやっとならぬように、厚生労働省は13年度から定期予防接種の対象とする方針です。これらも欧米では既に定期接種となっており、日本はやっとならぬように、厚生労働省は13年度から定期予防接種の対象とする方針です。

ン、小児用肺炎球菌ワクチンの三つは2010年から緊急事業として公的接種が行われていて、厚生労働省は13年度から定期予防接種の対象とする方針です。これらも欧米では既に定期接種となっており、日本はやっとならぬように、厚生労働省は13年度から定期予防接種の対象とする方針です。

ポリオは安全な不活化に

厚生省研究班の調査によると、ヒブワクチンの公的接種が行われた11年のヒブ感染による髄膜炎の発生率は、その前の3年間の平均に比べ約57%減少しました。ワクチンによる重症感染症の抑制効果を如実に示したデータといえます。

厚生省の研究班は水ぼうそう、おたふくかぜ、B型肝炎と大人用の肺炎球菌ワクチンも定期接種に組み入れるように勧告しています。が、財源不足のため、すぐには実現できそうもありません。しかし、予防接種は社会での感染症の流行を抑制して、医療費の節約につながるというわけです。早期の定期接種化が望まれます。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。